

「Bespoked Dresden 2026」調査報告書

一般財団法人自転車産業振興協会



この報告書は、競輪の補助事業を受けて作成しました。

2026 年 10 月 29 日
一般財団法人自転車産業振興協会

「Bespoked Dresden 2026」調査報告書

本報告書は、2026 年 9 月にドイツ・ドレスデンで開催された「Bespoked Dresden」における、当協会貿易検討委員会委員による現地調査報告書を精査し、まとめたものである。

【調査員】

- 貿易検討委員会 委員（国内自転車パーツメーカー）

1. 展示会概要

1.1 基本情報

- 名称：Bespoked Dresden
- 開催期間：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（※9 月 10 日は搬入・ブースセッティング）
 - 11 日（金）：10:00～18:00 プレス・業界関係者のみ / 18:00～22:00 一般向け（19:00～20:00 Award 発表）
 - 12 日（土）：10:00～18:00 一般向け / 13 日（日）：10:00～16:00 一般向け
- 開催地：ドイツ・Dresden 空港（会場内および共有エリア）

1.2 コンセプトと運営方針

本展示会は、ハンドメイドバイシクルおよびパーツメーカーに特化した展示会であり、以下の特徴を持つ。

- 出展審査と多様性の尊重：新規にメーカーが出展を希望しても、主催者によってショーにマッチするブランドであるかが評価され、出展可否が決定される。また、各ブースにはハンドメイドバイクを 1 台以上展示する決まりがある。展示会場ではビルダーが本職ではない方（幼稚園教諭など）も多く、異業種でも小規模でも平等にビルダーとしてスポットを当ててもらえるユニークな特徴がある。さらに、多様性やジェンダーレスの価値観を大切にしており、ミキストフレームなども積極的に

採用されている。

- **ボランティアスタッフの配慮：** セットアップ中もボランティアスタッフがよく困りごとはないかと声をかけてくれる。自転車好きなメンバーが多く、ブース間の壁の撤去対応や、実演用テーブルおよび黒いテーブルクロスが無償レンタルなど、親切的な配慮と柔軟な対応がショーの魅力を引き出している。

1.3 日別の来場動向と Award 発表

- **日別の来場状況：** プレス・業界人のみの時間帯では昨年よりも来場者が少なく、空いた時間に出展者が互いにコミュニケーションをとる姿が見られた。一方、2日目（土曜）は開場から多くの人を訪れ、終日ブースを離れられないほど多忙であった。3日目（日曜）の来場者はやや少なめで、空いた時間に会場内を見て回ることができた。
- **Award 発表の盛り上がり：** 初日 19 時になるとメインステージにビルダー達が集まり、Award の発表が行われた。Bag、Cargo、Finish、Headbadge、MTB、Offroad、Road、Touring、Track などのカテゴリでスポンサーやメディアの代表者が賞を決定するほか、出展者が好みのバイクを選ぶ「Best in Show」、来場者が選ぶ「People's Choice」がある。今年は Track Bike の展示が少なかった影響もあってか、ブースに展示した「Giawasa」のバイクが Best Track 賞を獲得し、「Guten Biken」のバイクも同第 3 位（実質 1 位であったが完全なハンドメイドバイクではなかったため 3 位扱い）を獲得した。展示車が賞を獲得することで、ブースでの面白い話題が増えて非常に良い効果があった。



2. 出展社・ビルダー動向および会場内実車トレンド

ブースでの展示車両および会場内の各出展社ブース、来場者の自転車観察より、以下の通り多様な製品・技術動向が確認された。

2.1 ブース展示車両（協力ビルダー2社）

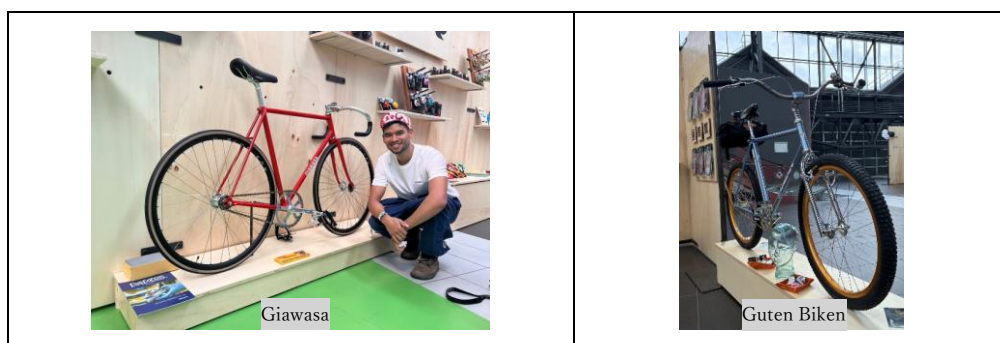
Bespoked の各ブースにハンドメイドバイクを1台以上展示する規定に基づき、昨年は「endless bikes」および「RadFelix」のバイクを展示したが、今年は以下の2台を展示した。

1. Giawasa（ドイツ・ベルリン / Best Track 賞受賞）

- ジンバブエ出身の Jurgen 氏（本職は幼稚園教諭）がつくったブランド。手に入る限りの部品で何とか工夫しながら自転車を動かし続けた原体験があり、展示バイクも方々に協力を申し出て作製されたものとなる（リアエンド：ケルビム、フロントフォーク：レベル、フレーム：Track Supermarket、日本パーツ：ドイツの間屋経由）。

2. Guten Biken（ドイツ・ミュンヘン / Best Track 賞 第3位）

- オーナーの Davo 氏から提供された展示車で、1987 年製の MTB 車「Kuwahara Lion」を改造・リペイントした固定ギアバイク。往年の Klunker ダウンヒルバイク風のスタイルで「Klunkerhara」というユニークな名前が付けられ、Brooks サドルなどいくつかの特注パーツで構成されている。



2.2 注目出展社・ビルダーの各社詳細

会場内で確認した各出展社およびパーツブランドの特徴は以下の通りである。

● CLOROFILLA（イタリア）

- マシニング機を所持するイタリアの会社。アルミのブロック材から全切削

で作り上げたペダルを展示していた。M4 スパイクピンが付き、軸は別会社から購入したチタン製を採用している。軽量だが高価になりそうな仕様であった。

- **Cycles Manivelle (フランス)**

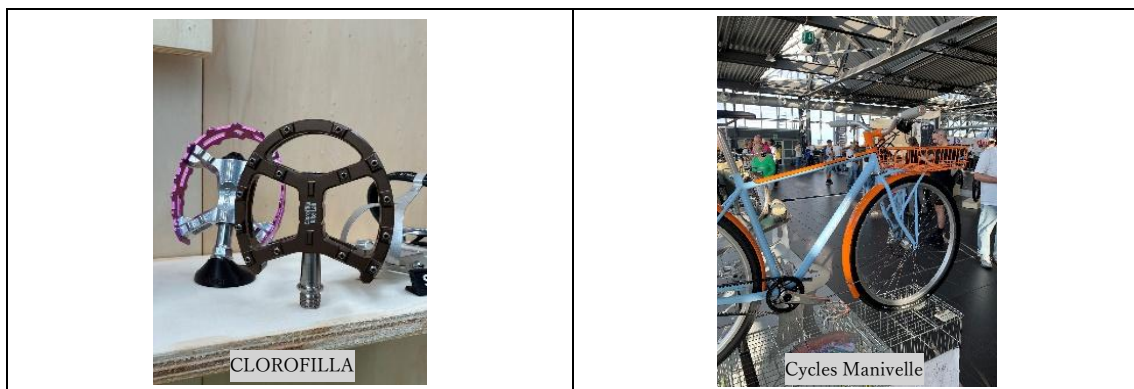
- フランスのビルダーが並ぶ一角に出展。スポーツカーのようなカラーリングの自転車とともに、自社製のラック、バスケット、バッグなどを展示していた。他のブースでも同社のバスケットが多く使用されているのが確認できた。

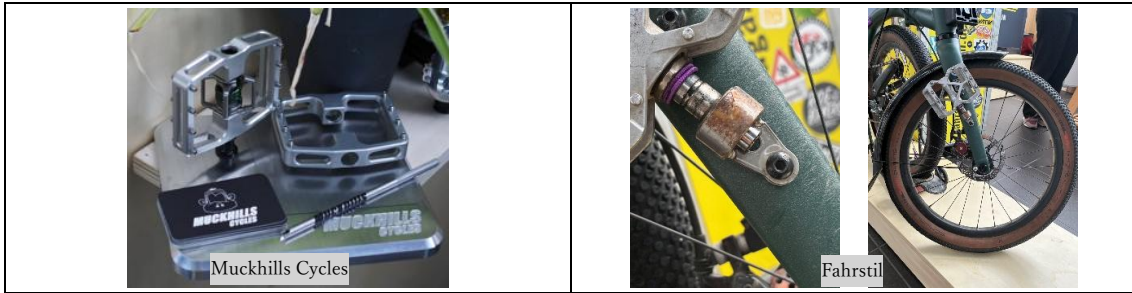
- **Muckhills Cycles (他ブースでのパーツ展示)**

- 全切削のアルミボディによるペダルのカスタムパーツで、クランクブラザーズのクリップレスペダルと互換性があり取り換えが可能となっている。同社自身は単独ブースを出展しておらず、近年このようにビルダーのブースにパーツブランドの製品を並べるケースが確認される。出展しない際の参加方法として参考になる事例である。

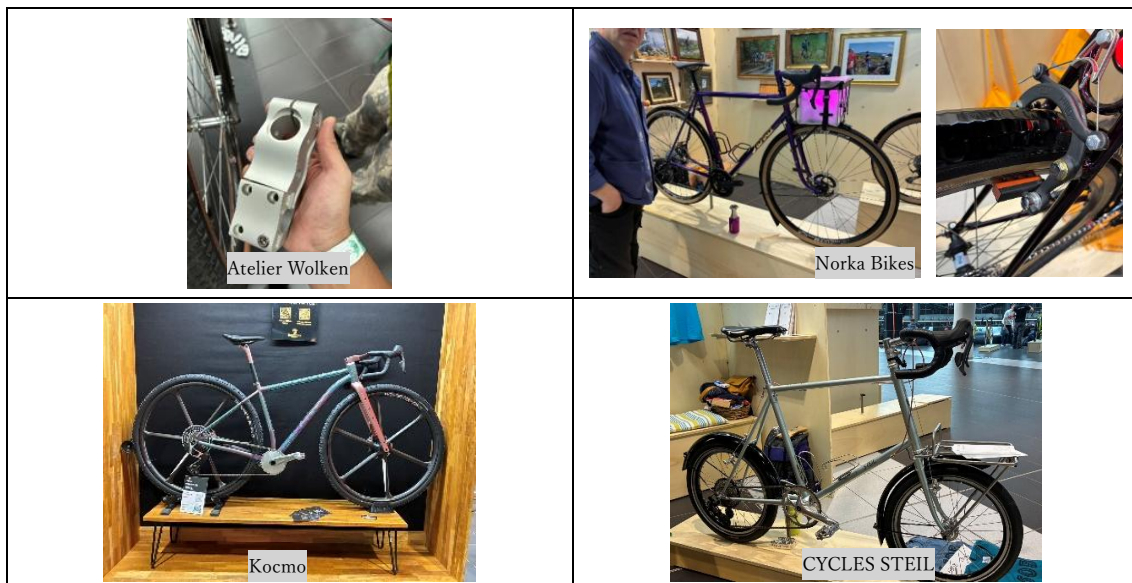
- **Fahrstil (ドイツ)**

- ドイツの自転車・ライフスタイル系季刊誌（毎号 3,000 部ほど発行、一冊 2,000 円程度）。雑誌販売の傍らに編集長の「Brompton G-Line」が展示されており、フロントフォークのダボ孔に「Eeder Metaal」製の着脱ペダル用ホルダーが取り付けられていた。M5 ボルトは 12mm から 25mm までラインナップがあり、強力なマグネットでペダルを自転車の様々な場所に固定できる仕組みとなっている。



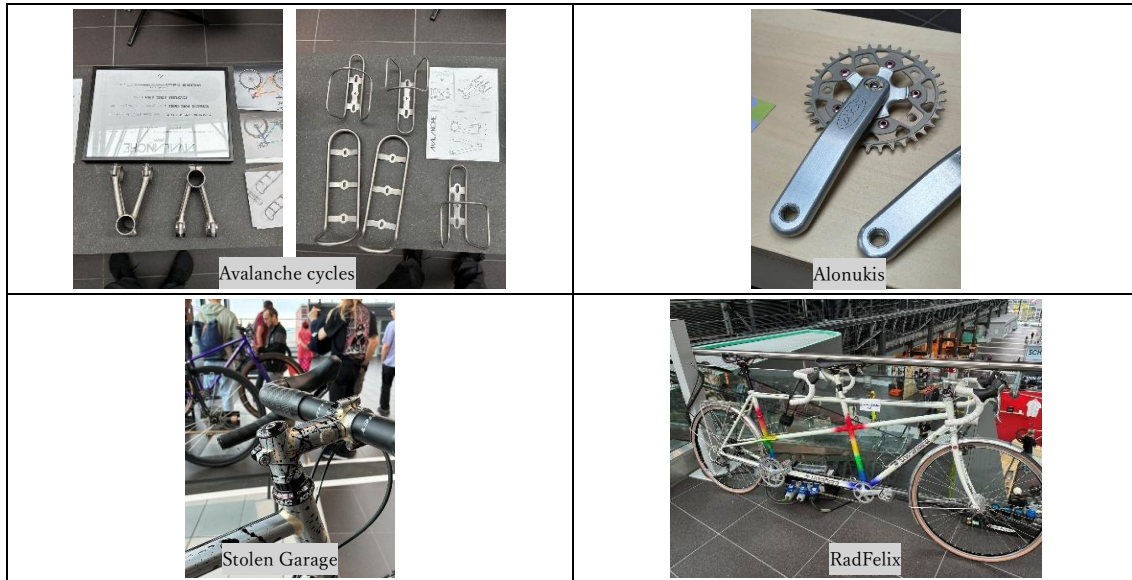


- **Atelier Wolken (ドイツ・ケルン / Best City Utility Bike 受賞)**
 - ケルンにあるワークショップを3名(中心となる Sam 氏、自転車カスタム系クリエイターとして有名な Joe 氏、Instagram 名「Kernig.camp」氏)でシェアしている。中国で試作した削り出しのステムを展示していたほか、ブースでは「Adventure Riksha」というルーフテント付きの折り畳み可能な三輪バイクが展示されて注目を集め、「Best City Utility Bike」を受賞していた。
- **Norka Bikes (スペイン)**
 - 街乗り、ツーリング、ランドナーなどの車体を手掛けるスペインのビルダー。黒パーツを多く取り入れたランドナー車には、黒アルマイトを施した MAFAC のブレーキに「Kool Stop」の MAFAC 用リペアパーツが組み合わされていた。
- **Kocmo (ドイツ・ベルリン郊外)**
 - 陽極酸化処理が美しいチタン製バイクを展示。展示車へのペダル提供を求められたため、現地にてペダルを提供した。
- **CYCLES STEIL (Best City/Utility Bike Award 受賞)**
 - Path Less Pedaled が選ぶ「Best City/Utility Bike Award」を受賞。フレームを分割してコンパクトに持ち運び可能な 20 インチ通勤用バイクやランドナーを展示していた。同メーカーでは日本製のペダルを積極的に採用している。



- **Avalanche cycles (フランス・パリ)**
 - 自転車車体以外に、真鍮ロウ付けされた美しいステンレスステムや、TIG溶接されたチタン製ボトルケージを展示していた。こうした小物パーツはフレーム単体よりも手が出しやすい商材として注目される。
- **Alonukis (ドイツ)**
 - ブース内にて「Too Tired Bicycles」のチェーンリング（アルミ合金 7075-T6 に硬質アルマイトを施したもの）を展示していた。ドイツではすでに Guten Biken などが販売を開始しており、10 月の Bespoked Osaka にも出展参加予定とのことである。
- **Stolen Garage (フランス・パリ)**
 - Romain 氏と Fin 氏の 2 名で出展。ワークショップの横にレストランが隣接し、レストランの窓からフレームビルディングの様子を覗けるユニークな店舗経営を行っている。本展示会では左右で異なるスプラッターパターンのペイントが施され、ステムにメダルをあしらった丁寧な溶接研磨の車体を展示していた。
- **RadFelix (ドイツ・ドレスデン)**
 - ブースを持たないものの、会場エスカレーター横に Kuwahara のフレームを再利用して作製したパートナーとのタンデムバイクを設置し注目を集め

ていた。軽量の SPD ペダルを好む。Bespoked Osaka へも出展し、四国などを旅行する計画とのことである。



- **La Fraise Cycles (フランス・ルーベ)**

- ランドナー・ツーリングスタイルを得意とし、展示車にはいずれも日本製のペダルが使用されていた。セミカスタムモデル「Gran Turismo」には、サポーターなしで簡単に付け外しができるフロントバッグやクイックリリース式のパンニアバッグなどギミックが詰まった構成となっており、ビルダーズ CHOICE でも投票対象として高く評価した。もう一台の美しいグラデーションペイントのバスケット付きランドナー車も注目を集めていた。

- **Timtasrek (オランダ)**

- 自転車バッグやキャリアを扱うハンドメイドブランドで、金属加工と縫製の両方を手掛けている珍しい形態である。「Gazelle」という古いロードレーサーに太いタイヤを履かせるためチェーンステアーを角パイプで改造し、自社バッグ類を設置して展示していた。

- **Starfish Cycles (デンマーク / Best in Show 受賞)**

- 個性的なルックスのビルダーが手掛けるブランドで、バッシュガードなども製作している。ネオンピンクのスタイリッシュなランドナー（日本製ペダルを取り付けて納車予定）が、今年最も名誉ある「Best in Show」を獲得した。

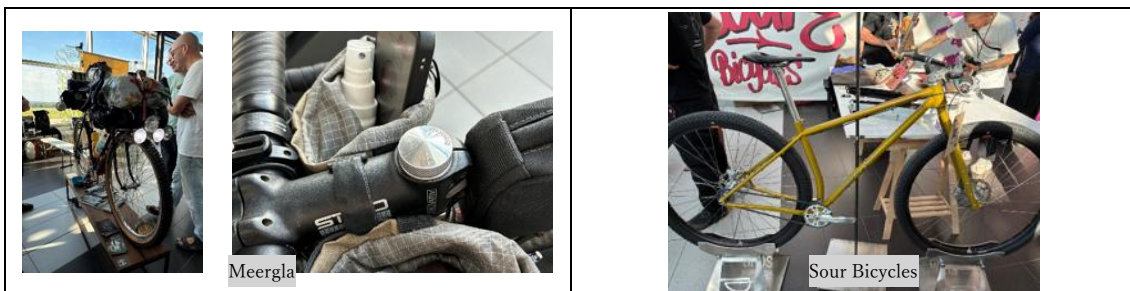


- Meerglas (ドイツ)

- 4つのハロゲンライトを備えた自転車の展示で賑わっていた。「Velogical」のリムダイナモが発電を担い、ステムのトップキャップ部に設けられたスイッチによってライト2灯点灯と4灯点灯（ハイビーム）の切り替えができる仕組みとなっている。

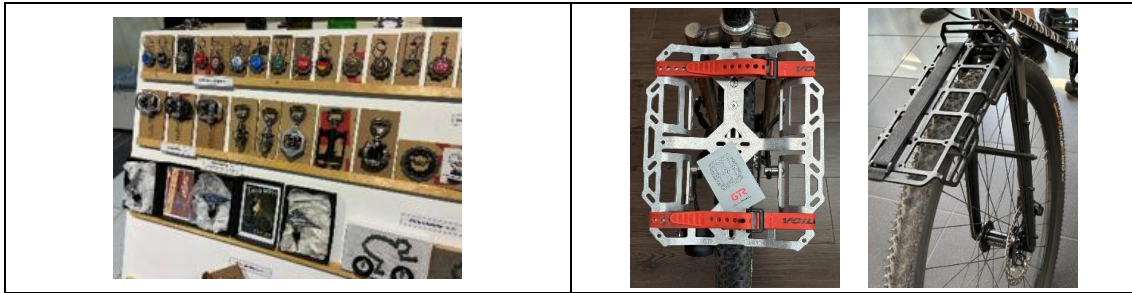
- Sour Bicycles (ドイツ・ドレスデン)

- 地元ドレスデンのビルダー。32インチ専用設計のバイクを展示していた。他ブースでも数点、32インチサイズモデルのMTB展示が見受けられた。



- その他のユニークな展示アイテム

- 会場内のブースでは、ペダルボディに栓抜きやワインオープナーを組み付けたアクセサリーや、モールシステム的な構造を持つフロント・リアラックなども見受けられた。



2.3 会場来場者の実車に見るペダルトレンド

日曜日に会場来場者の自転車を観察した結果、特徴的なペダル選択が確認された。

- **靴底への攻撃性を抑えた工夫：**「MTB ペダルのスパイクピンを外して滑り止めテープを貼ったカスタムペダル」や「モトペダル」が確認され、シューソール（靴底）への攻撃性を嫌うユーザーの意図が感じられた。それ以外のフラットペダルでも、スパイクピンの突起はやや控えめなものが多く選ばれていた。
- **ニッチ・機能性ペダルの使用：** 現在生産終了となっているスピードプレイの「Frog」やさらにニッチな「Magnum」、また SPD ペダルをフラット化する「Redshift」のアイテムなどが装着されているのが確認できた。



3. 出展運用とプロモーション戦略

3.1 「体験」と「遊び心」によるブース集客

このショーでの主役はビルダー達であり、コンペティションがあるわけではないパーツメ

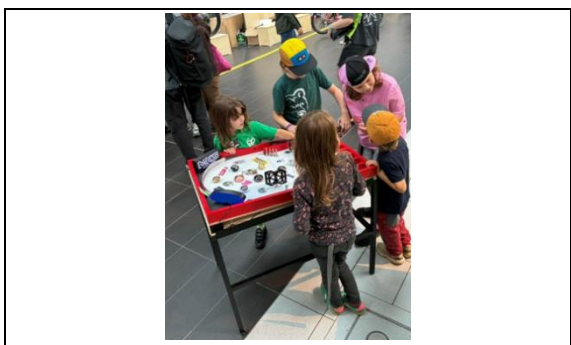
カーは、製品を見せることだけに躍起にならず、ショー全体を盛り上げる役割を担うことが重要である。

- ペダルの組立デモ：

MKS では共同出展の Crane Bell と各 3m×2.5m（計 6m×2.5m）のブースをブッキングし、展示アイテム約 40 点を陳列していた。ペダルの組立デモでは、説明員自身が組み立てて見せるのではなく、ビジターが組み立てを体験するように勧めていた。家族連れには簡単な作業を子どもに体験させ、大人（希望者のほとんどがメカニック）にはほぼ全行程を指導しながら組立させていた。実演し、実際に体験を勧めることで自然と人が集まり商品に興味を持ってもらえる有効な取り組みとなっていた。

- Crane Bell 製ピンボールの設置：

ピンボールマシン（現在アメリカとドイツに存在）に照明を添えてブースに設置し、特にキッズ層に喜んでもらえた。



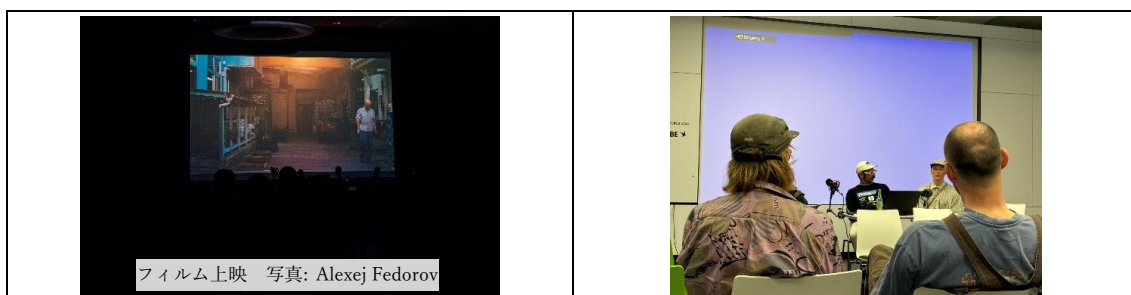
3.2 メディア取材とフィルム上映会

- グローバルメディアの取材と雑誌掲載：

メディアでは「The Radavist」の John 氏をはじめとする取材チームが最もコミットしており、空港の共有エリアに展示自転車を持ち出して撮影したり、ビルダーにインタビューを行っていた。その他、「BIKEPACKING.COM」「Pinkbike」「Cycling Weekly」などのグローバルメディアも取材に訪れていた（このうち The Radavist や Pinkbike は Bespoked Osaka にも取材で訪れる予定）。また、ドイツの季刊誌『fahrstil』の秋号がこの Bespoked から発売開始となり、ドイツ人の Adam 氏が 5 月に日本の工場やイベントを訪れた際の記事がドイツ語で 14 ページにわたり掲載されていた。

- 『Film Tamahagane』上映会とトークセッション：

Bespoked では土日の 2 日間、1 時間ごとにトークイベントが開催されている。13 日（日）11:00～12:00 には「Film Tamahagane」の上映会が開催され、約 40 名が参加した。7 月の暑い中、主催者 Petor 氏が静岡、東京、埼玉、福島、大阪、京都、島根、名古屋等へ出向き、工場やビルダー、競輪場等の映像を撮影した 3 部構成のフィルムであり、日本のパーツメーカー工場でもほぼ一日をかけて撮影が行われた。興味を持ってくれそうな海外関係者にも参加を促し、日本からの出展メンバーも参加した。上映後はトークセッションに移り、会場からは「NJS の規格」や「今の競輪が一般の自転車乗り（とりわけ若者）にどのような影響を与えているのか」などの質問があがった。NJS の規格については会場内で明確に語れる者がいなかったため、今後の Bespoked Osaka に向けて、NJS とビルダーの関係などを丁寧にビジターへ説明していく姿勢が求められる。



4. ロジスティクス・出展実務および今後の動向

4.1 移動・設営・撤収の実務

- **FLIX BUS による移動：** Berlin 空港と Dresden の間の移動には「FLIX BUS」を予約して利用した（帰路も 9 月 14 日 6:00 発の FLIX BUS で Berlin 空港へ移動）。FLIX BUS は予約が簡単でバス停の位置も分かりやすく、スーツケースが預けられるため楽に移動することができた。
- **設営および撤収：** 会場到着後、受付で入場用リストバンドを受け取り、空港のカーポートを利用して車から会場へ荷物を運搬した。ブースのパネルや棚、展示台などは主催者が用意してくれるため、設営や 16:00 ショー終了後の撤収もスムーズに完了した。

4.2 出展費用と参加条件の特徴

Bespoked の出展費用はスペースに対して一律ではなく、従業員規模・売上規模・自社生産の有無などによって大きく異なる。このため、例えば問屋などがブース出展しようとする場合には非常に高額になり、Dresden 会場でも問屋が出展しているケースは確認できなかった。一方、IBD 向けの販路に強いパーツ・フレームメーカーであれば、日本からでも参加する価値は十分にある。

4.3 「Bespoked Osaka」および「Bespoked 2027」の動向

- **Bespoked Osaka の出展予定：** パーツメーカーとして「Brooks England」「White Industries」「Tailfin」などが出展すると言っており、ビルダーについても数社その意向を確認している。オーストラリアの「Curve」も参加予定であり、イギリスのロンドンからはコミュニティハブ的なお店「BabyInd」を経営している Marlon 氏が来日予定となっている。
- **Bespoked 2027 の開催地動向：** Bespoked UK 2026 の後、運営からフィードバックを求められた際、2027 年のヨーロッパ開催は Dresden ではなくドイツの別地域あるいはフランスなどで開催してほしいと伝えた。異なる地域で出展機会を得ることで異なる顧客にリーチでき、同じ地域での継続開催は段々と参加のハードルが高くなるためである。主催者からは 2027 年は Dresden 以外の場所での開催を視野に検討を進めているとの回答があり、噂では「Freiburg im Breisgau」という地域が有力視されている。フランスからもスイスからもアクセスが良く、従来の東ヨーロッパ顧客を呼び込みやすいショーから西側へとシフトする朗報であり、訴求したいエリアを見定めながら各メーカーが出展の意向を判断できると良い。

5. 結論と提言

5.1 展示会の位置づけと感想

大きな箱もの BtoB ショーに比べて、Bespoked ショーはパーツメーカー、ビルダー、小売店、メディアなど、自転車好きな業界人がリアルコミュニケーションを介して絆を深める場になりやすい。入場チケット数に制限を設けたり、金曜日をプレス Day にするなど、主催者もそういった意図で運用をしている。量販店向け販売が少ない専門パーツメーカーにとってはこのようなショーが非常にマッチしている。

5.2 提言 (Bespoked Osaka / Japan に向けて)

Bespoked の主催者 Petor 氏は大阪でのショー開催を成功させるため多くの時間を割いており、彼の人脈を活かして The Radavist、Pinkbike などのグローバルメディアが来日することを明らかにしている。ショーは日本のパーツメーカーやビルダーが今後ビジネスを拡大するための足掛かりとなるチャンスとなり得る一方、それは台湾や中国のメーカーにとっても同様に、チャンスに敏感なメーカーは既に Bespoked Osaka への出展を表明している。これを踏まえ、以下の2点を提言する。

- **ハンドメイドバイシクルショーとの事前意見交換・調整：** 日本のビルダーのショーへの参加度合いはまだ不透明であり、「東京で開催されるハンドメイドバイシクルショーで充分」という側面があるように思われる。こういった状況から、(一財) 自転車普及協会と Bespoked が2027年の「ハンドメイドバイシクルショー」および「Bespoked Japan」の運用についてあらかじめ意見交換をし、それぞれのショーがうまく機能するように調整を図っていくことを推奨する。
- **NJS 規格・競輪トラックバイクの PR とビルダーへの出展補助：** フレンチスタイルのランドナー、イギリスのロードスターバイク、アメリカのビーチクルーザーや MTB といったカテゴリ同様に、日本における「競輪トラックバイク」は Bespoked 主催者として引き出したい側面があると思われる。Bespoked Dresden のフィルム上映会で質問があがったように、NJS 規格のルーツや詳細を魅せる場があっても良いように思えた。

以上